

展示室4 オディロン・ルドンの版画

2022年7月2日(土)～7月31日(日)

オディロン・ルドン(1840～1916)は、自分の独自の想像の世界や、文学作品を発想源とした幻想的なイメージを表すために、モノクロームの版画、特に素描のタッチがそのまま移せるリトグラフに新しい可能性を見いだしています。

展示室4では代表的な挿絵版画集『聖アントワーンの誘惑』第1、2、3集と『陪審員』、友人に捧げた版画集『夢想』、リトグラフ《老いたる騎士》、パステル《聖セバスティアヌス》を加えてご紹介します。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	オディロン・ルドン	『陪審員』	1887年	リトグラフ・紙	
1-1	I	彼の部屋の壁が裂け、裂け目から髑髏が現れ出た			18.0×15.1
1-2	II	彼女は劇的で、大いなる様子で、ドルイド教の巫女のような髪をして彼の前に姿をあらわす			19.0×14.2
1-3	III	一般庶民で、残忍な男がひとり、馬の頭の下を通り抜けていった			18.3×13.6
1-4	IV	近くの鐘塔で聖ギュデュルの重々しい鐘の音が時を告げていた			20.5×15.4
1-5	V	樹々の枝が骸骨のように入り組んだ並木道の入り口に、つるりとしてやせ細った亡霊が姿をあらわす			15.5×9.8
1-6	VI	目に見えず、奇矯で、幻想的な、いま萌芽しつつあるものから成る世界が、なぜ存在しないといえようか			21.8×16.9
1-7	VII	亡霊の不吉な命令:「お前は自殺しなければならない!」は遂行された。夢は死をもって終わった			23.8×19.0
2	オディロン・ルドン	『聖アントワーンの誘惑』第一集より	1888年	リトグラフ・紙	
2-1	II	それは双翼の下に七つの大罪を抱く悪魔だ			25.4×20.0
2-2	III	…そして空から舞い降りた大きな鳥が彼女の髪のとっぺんに襲いかかる			18.9×16.0
2-3	V	つづいて魚の胴体に人間の頭をつけた奇妙な生き物が現れた			27.5×17.0
2-4	VI	それはバラ色の冠をいただいた死者の頭である、それが真珠のように白い女の胴体の上ののっている			29.6×21.8
2-5	VIII	そしてあらゆる種類の恐ろしい動物が現れる			31.2×23.3
2-6	IX	いたるところで瞳が焰をはく			20.4×15.8
2-7	X	…円い太陽の真中にイエズス・キリストの顔が輝く			28.3×23.0
3	オディロン・ルドン	ギュスターヴ・フロベールに 『聖アントワーンの誘惑』第二集	1889年	リトグラフ・紙	
3-1	I	聖アントワーン「…その顔を覆い隠す長い髪の毛を透かし見た時、私はそれがアンモナリアだと思い込んだのだ…」			28.5×23.0
3-2	II	…血の色をした細長い蛹			21.9×18.4
3-3	III	死神「私の皮肉には、いかなる皮肉もかないはしない!」			26.2×19.7
3-4	IV	聖アントワーン「どこかに始源的な形象があるはずだ。その身体は心像に過ぎないのだ」			17.0×12.4
3-5	V	スフィンクス「…私のまなざしは何者もそらすことができず、万象の彼方、近づきえない地平の果てにじっと向けられたままでいるのだ」 キマイラ 「私はね、軽々として陽気だよ!」			28.0×20.0
3-6	VI	スキアポデス「頭をできるだけ低くすること、それが幸福の秘訣だ!」			27.0×20.5

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
4	オディロン・ルドン	『夢想(我が友アルマン・クラヴォーの思い出のために)』	1891年	リトグラフ・紙	
4-1	I	…それは一枚のヴェール、ひとつの刻印であった…			18.7×13.2
4-2	II	そして彼方には星の偶像、神格化			27.6×19.1
4-3	III	ゆらめく光、吊された永遠なるひとつの頭			27.3×20.6
4-4	IV	かげった翼の下で、黒い存在が烈しく噛みついてた…			22.3×17.0
4-5	V	この世の巡礼者			27.5×20.3
4-6	VI	日の光			20.8×15.5
5	オディロン・ルドン	『聖アントワーヌの誘惑』第三集より	1896年 (1938年刊行)	リトグラフ・紙	
5-1	IV	わが口づけは汝の心にとろける果実の味！…汝はわれをさげすむ！さようなら！			19.9×16.0
5-2	XIII	…そして頭をもたない目が軟体動物のようにただよっていた			31.0×22.4
5-3	XVIII	聖アントワーヌ「これらすべてのものの目的は何だろう？」 悪魔「目的なんぞありはしない！」			30.7×24.8
5-4	XX	死神「おまえを真剣にさせるのは私だ、抱き合おう」			30.1×21.2
5-5	XXIII	大海原の国にはさまざまな人々が住んでいる			30.9×23.1
5-6	XXIV	ついに陽が昇った、そして太陽の円光の中にイエス・キリストの顔が輝く			26.4×20.3
6	オディロン・ルドン	《老いたる騎士》	1896年	リトグラフ・紙	29.8×23.5
7	オディロン・ルドン	《聖セバスティアヌス》	1910—1913年頃	パステル・紙	67.0×53.7

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。